

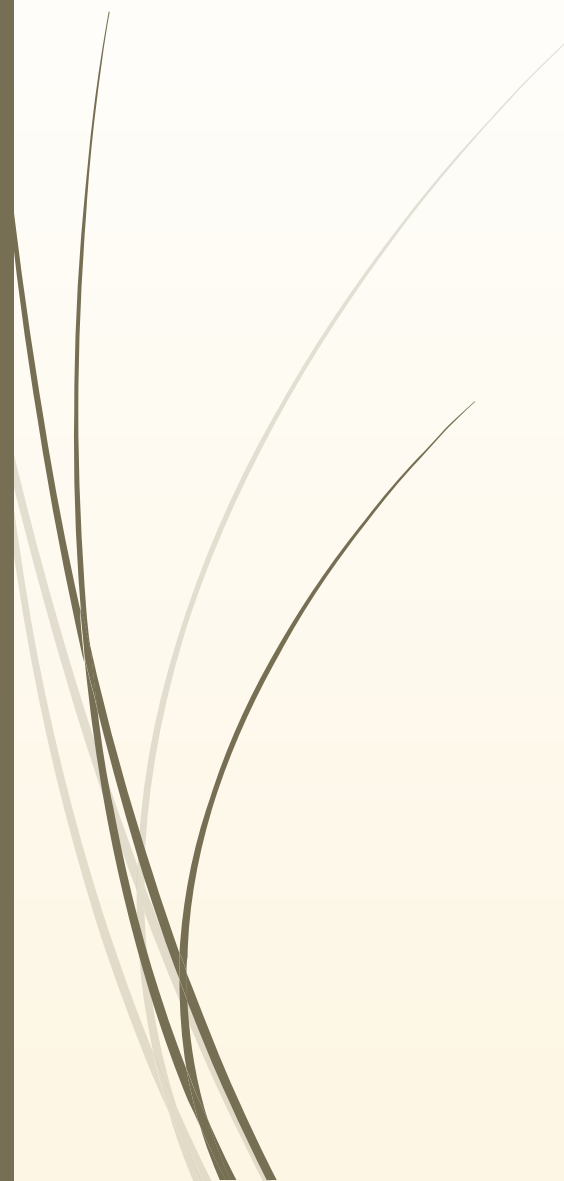
2020年アメリカ大統領選挙 とその歴史的背景

藤木 剛康（和歌山大学経済学部准教授）

第121回わだい浪切サロン（2020年11月18日）



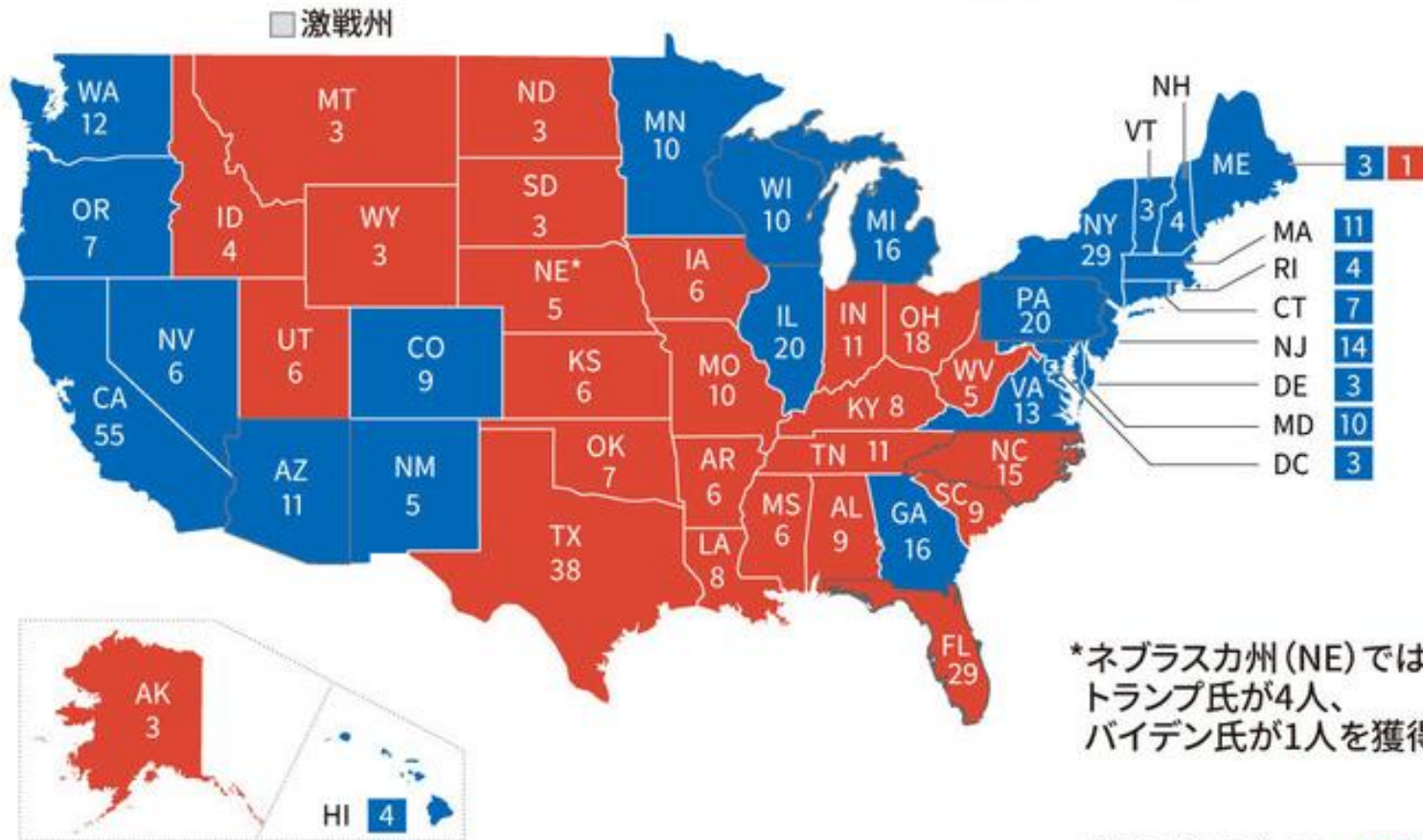
1. 2020年アメリカ大統領選挙の概要



2020年アメリカ大統領選挙の概要

米大統領選 選挙人獲得数

選挙人538人中270人の獲得で当選



*ネブラスカ州 (NE) ではトランプ氏が4人、バイデン氏が1人を獲得

出典: 米メディア AFP

- 州ごとに「大統領選挙人」を総取り→全国での支持率はあてにならない。
- 赤い州・青い州・激戦州→激戦州の動向が結果を左右。
- 史上最大・最低の大統領選？

保守とリベラルの対立～コロナ対策か、経済か

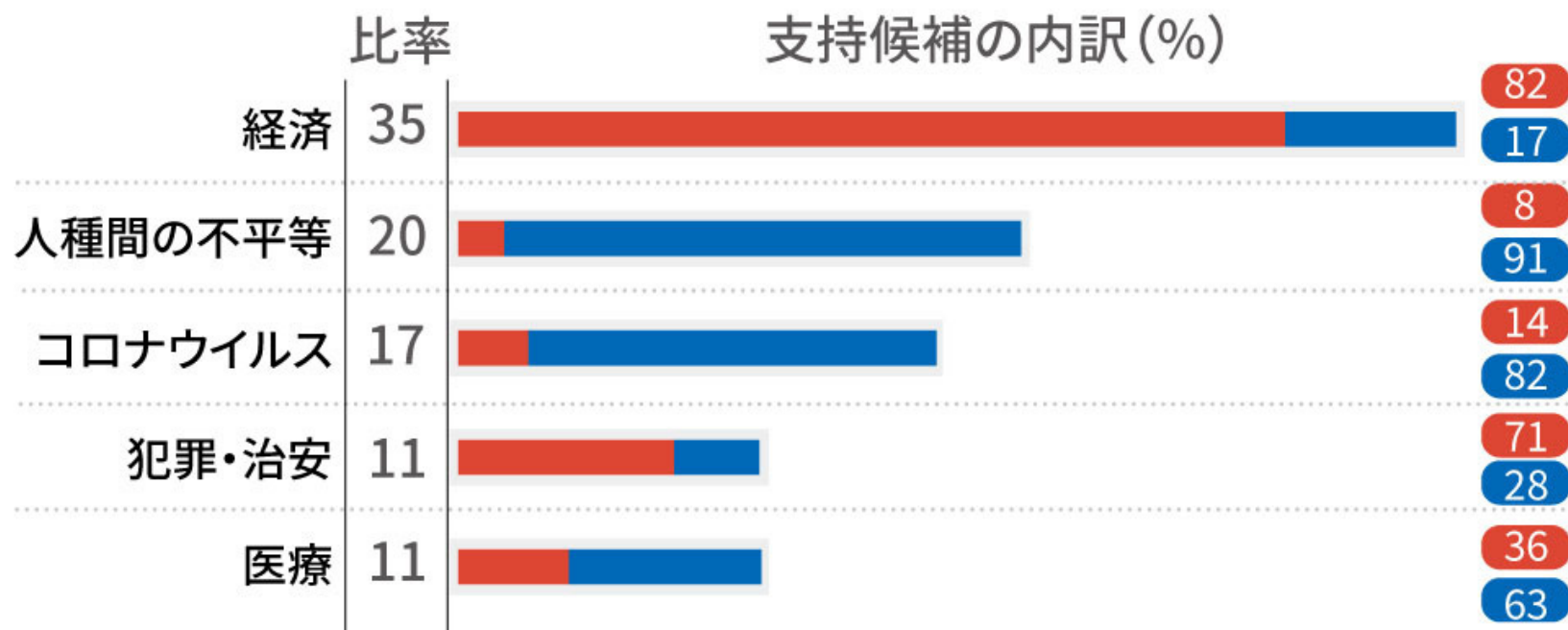
米大統領選

出口調査の結果

日本時間
4日午後7時時点

最優先の問題は？

■ ドナルド・トランプ
■ ジョー・バイデン



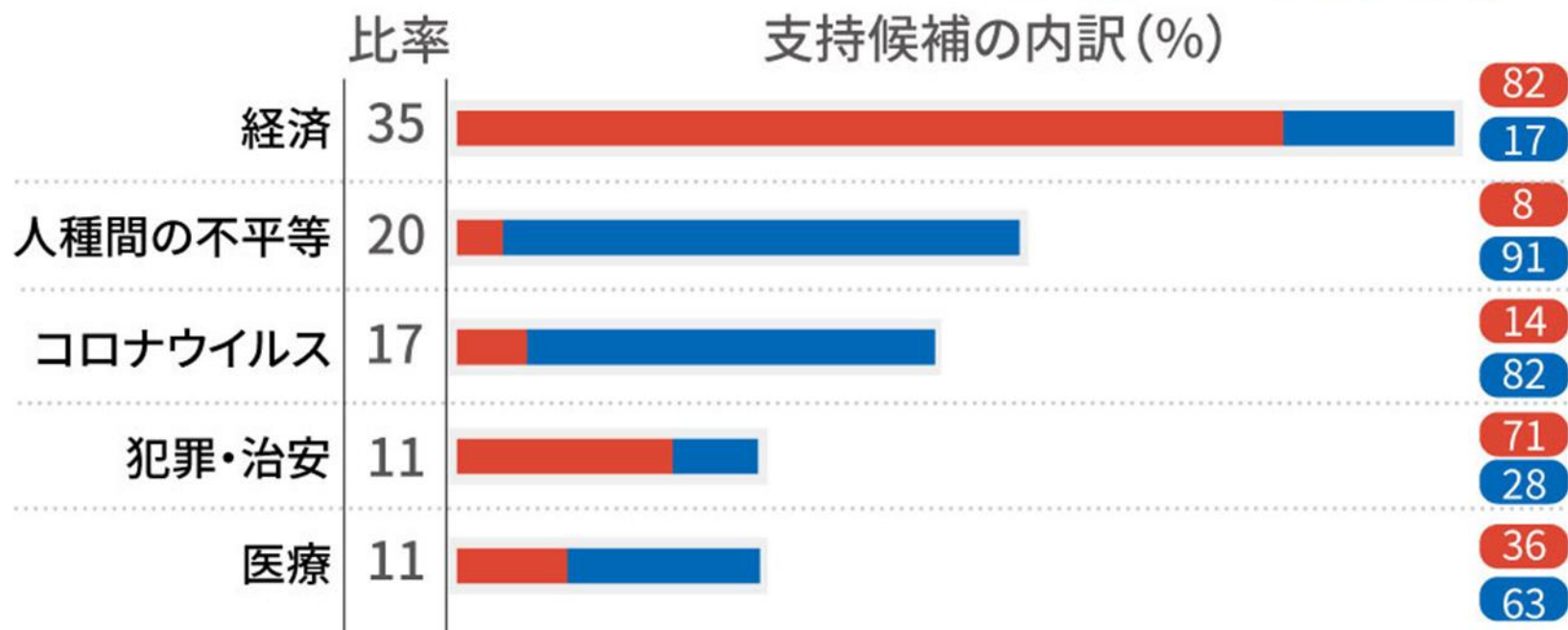
保守とリベラルの対立～コロナ対策か、経済か

米大統領選 出口調査の結果

日本時間
4日午後7時時点

最優先の問題は？

■ ドナルド・トランプ
■ ジョー・バイデン



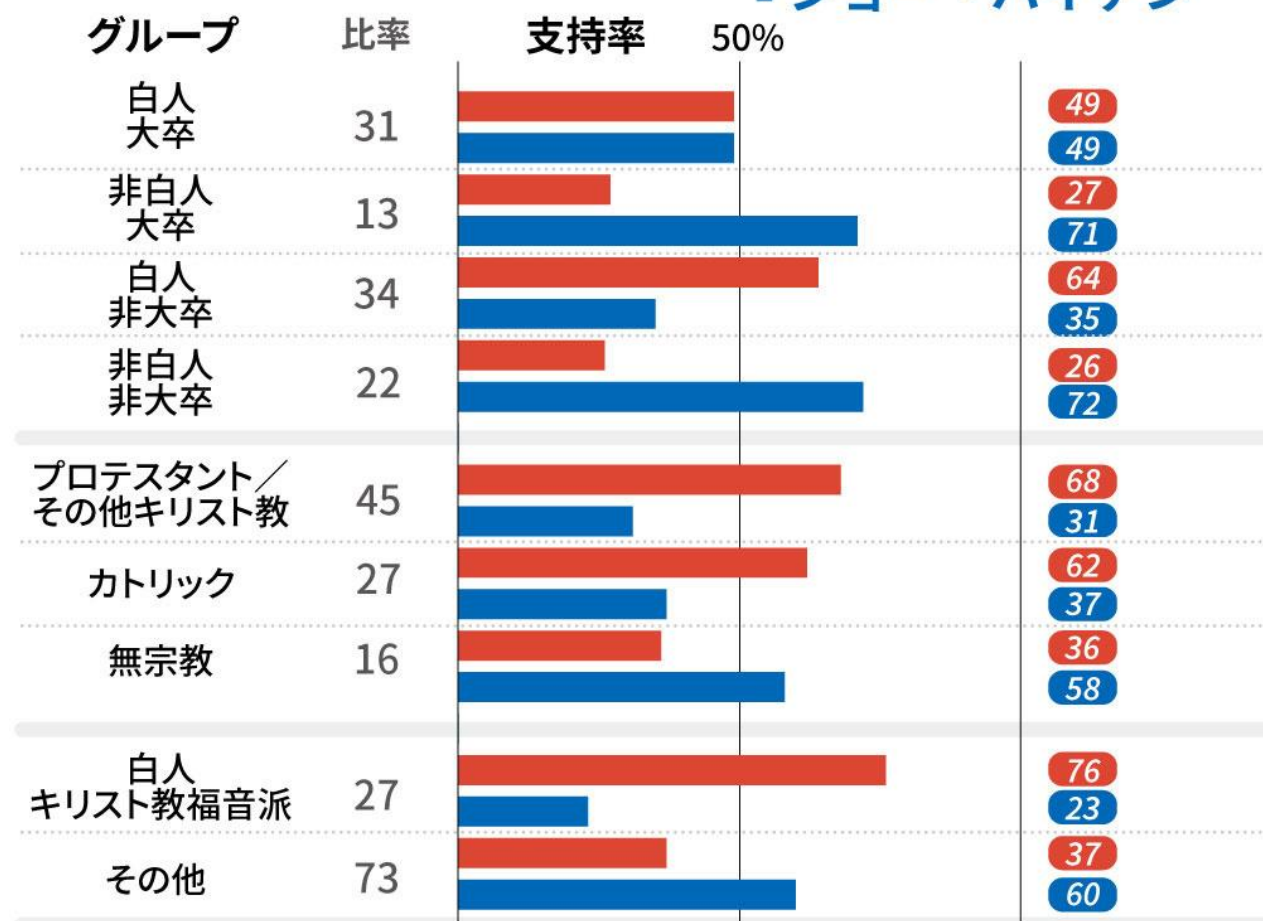
- ✓ 最重要の論点は経済だが、概ねトランプ支持者。
- ✓ 人種間の不平等・コロナを重視しているのは概ねバイデン支持者。

保守とリベラル~どのような人たちが

米大統領選 出口調査の結果 日本時間 4日午後5時時点

学歴・宗教別の結果

■ ドナルド・トランプ
■ ジョー・バイデン

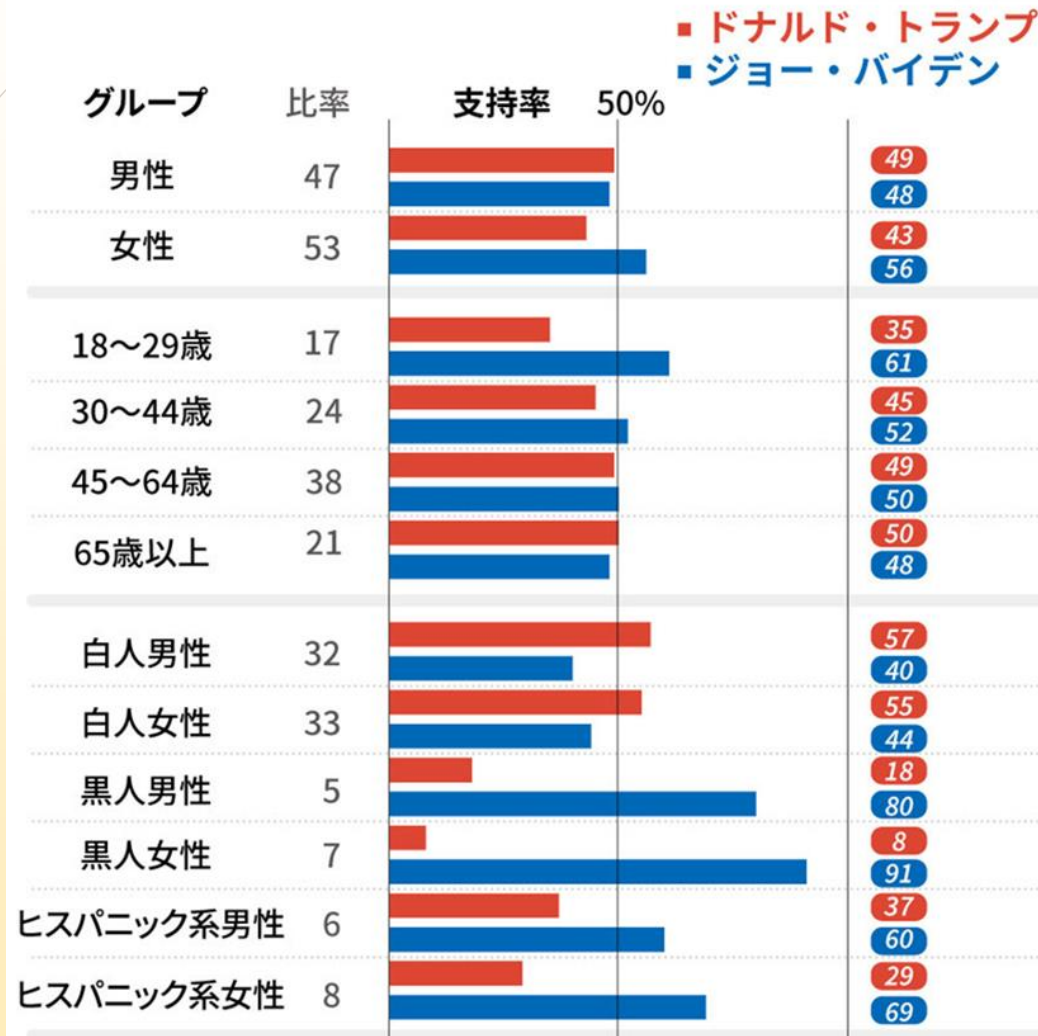


✓ 学歴。白人非大卒はトランプ支持、非白人では学歴を問わずバイデン支持が多い。

✓ 宗教。宗教心の明確な人はトランプ支持の傾向。

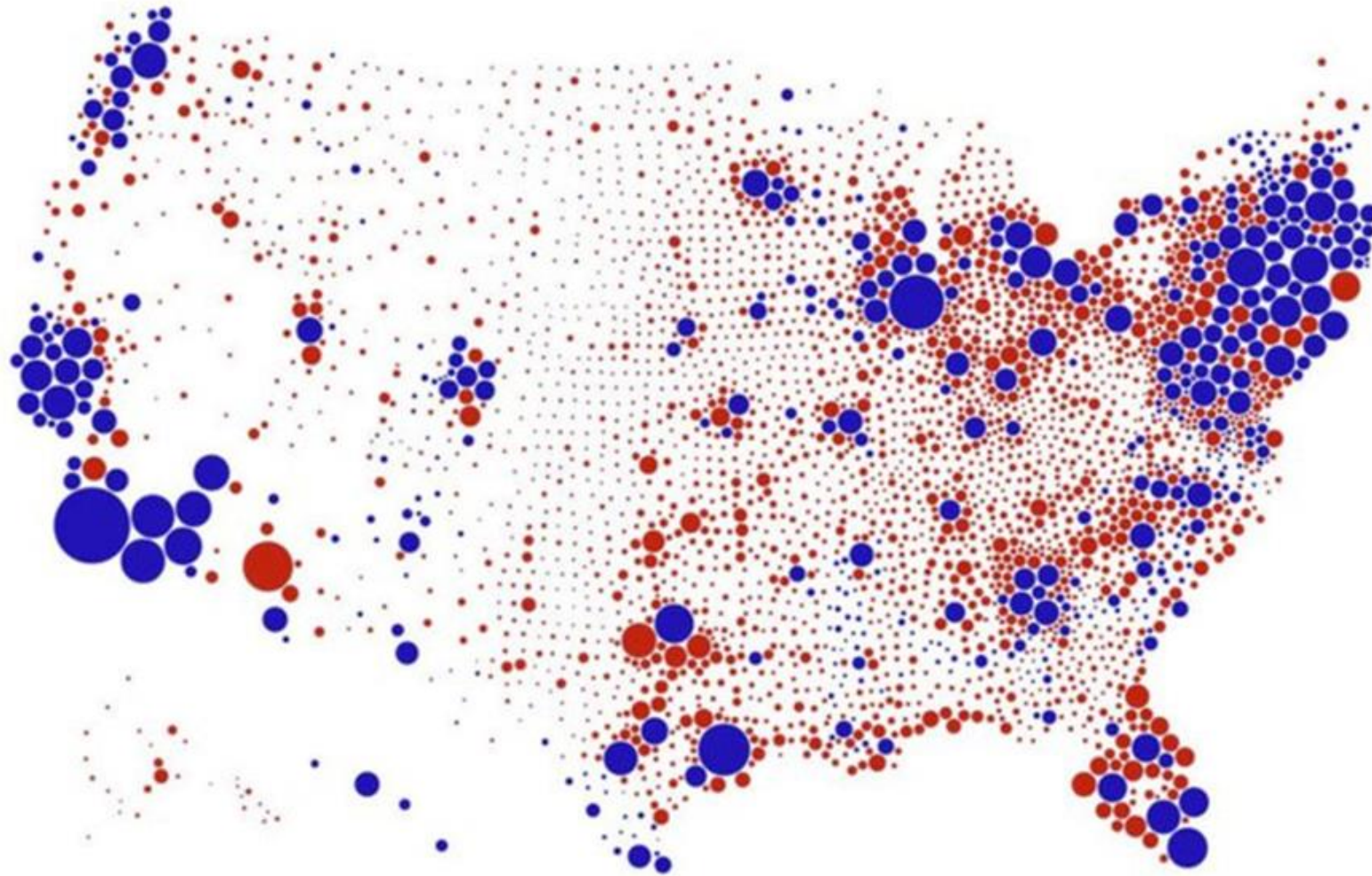
保守とリベラル~どのような人たちが

米大統領選 出口調査の結果 日本時間 4日午後1時時点



- ✓ 性別。女性はバイデン支持が多い。
- ✓ 年齢別。若年層ではバイデン支持が多く、中高年層では拮抗。
- ✓ 白人はトランプ支持が多く、黒人やヒスパニックではバイデン支持が多い。

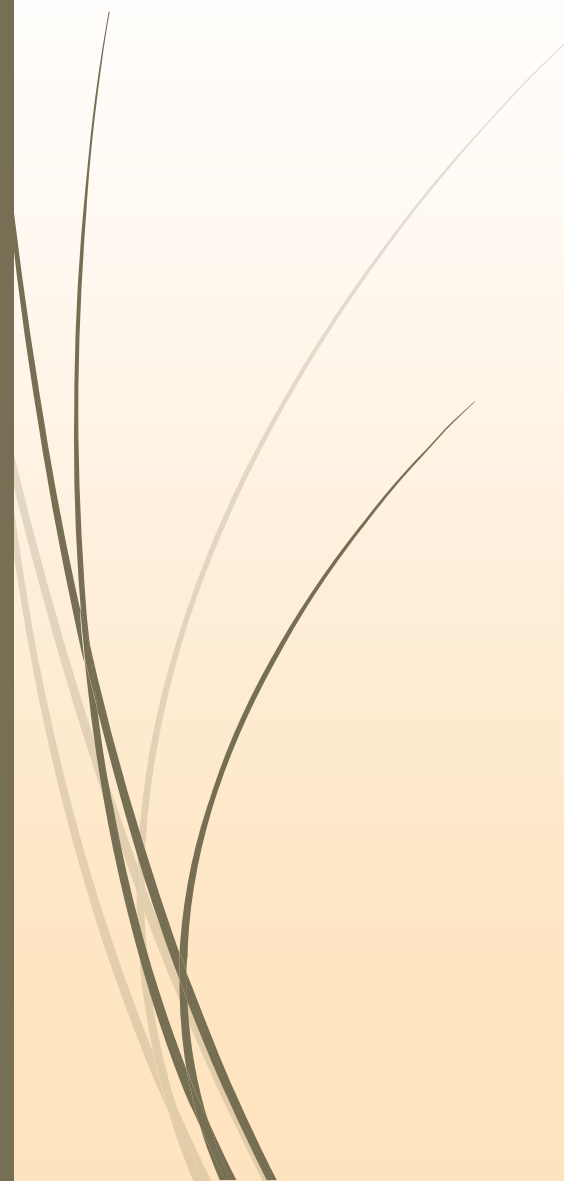
保守とリベラル～どこに住んでいるのか



- ✓ 2016年大統領選挙の投票結果をカウンティ（州以下の行政単位）ごとに示したものの。
- ✓ 青は民主党支持、赤は共和党支持。点の大きさは票数を示す。
- ✓ 民主党支持の点の方が大きい傾向があり、地域的にも沿岸部に偏っている。



2. アメリカにおける保守とリベラルの展開



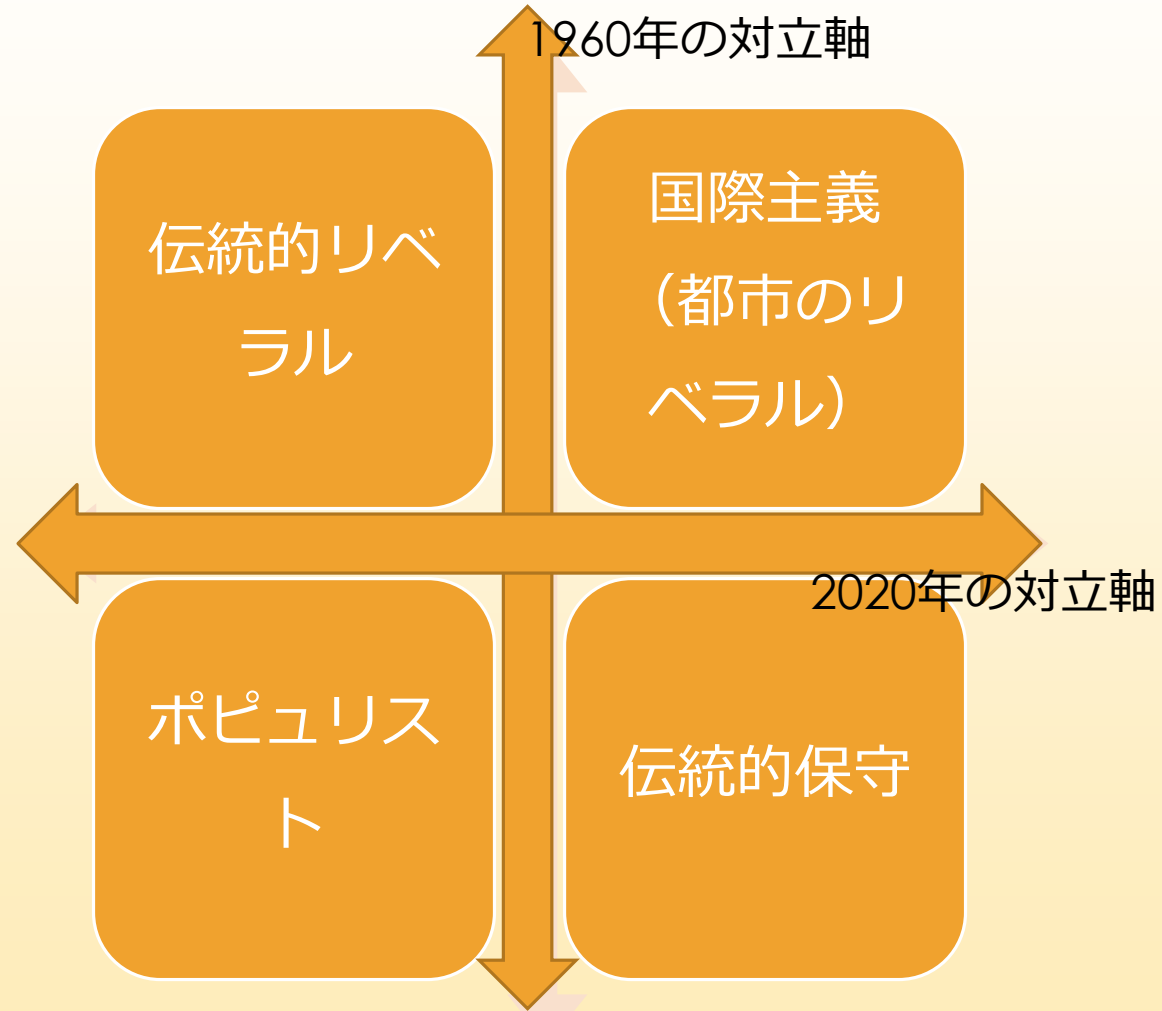
保守とは？リベラルとは？

- ▶ 西欧諸国における保守とリベラル
- ▶ 近代 = 自由・平等・市場経済を認めるのか、認めないのか？
- ▶ 保守（右翼）伝統や身分制、古い共同体への回帰や保全、漸進的改革を志向。
- ▶ リベラル（左翼）。合理主義的改革（=革命）を肯定。
- ▶ アメリカにおける保守とリベラル
- ▶ 自由で平等な近代社会として出発。
- ▶ 保守。自由で平等な社会、自立した個人を守るため、小さな政府を志向。
- ▶ リベラル。これらの理念を実現するため大きな政府を志向。
- ▶ ただし、南部の黒人は含まれず。

政治的対立軸の変化～経済から文化へ

社会的・文化的リベラル：マイノリティを擁護する政府

経済的リベラル…再分配を志向する大きな政府



経済的保守…自由放任を志向する小さな政府

社会的・文化的保守：マイノリティ擁護に反対。

大恐慌とルーズベルトの時代 ～アメリカ的リベラルの形成

- ▶ ニューディール連合（70年代までの民主党）
 - ▶ 「大きな政府」による恐慌対策→1936年大統領選挙で大勝利。白人労働者を中心に広範な政治連合を形成。
 - ▶ 仕切られた社会。全国規模の労働組合や友愛団体、宗教団体などの自発的結社を通じて多くの国民が政治参加。
 - ▶ 南部民主党の黒人差別を黙認。
- ▶ 1964年公民権法を契機に解体
 - ▶ 反発する南部の白人は共和党へ。
 - ▶ 若い活動家は既存の労働組合や政治団体の官僚主義を嫌い、草の根のマイノリティ団体へ。

経済停滞とレーガンの時代 ～保守連合の形成

- ▶ 80年代以降の共和党（レーガンの共和党）
 - ▶ ニューディール連合に反発する諸勢力（①反共タカ派、②財政保守、③伝統保守（宗教勢力））を糾合→市場経済と個人の選択を優先。
 - ▶ 民主党でも、経済的格差の是正よりは人種的・文化的少数派の権利の促進を唱える勢力が台頭。
 - ▶ 流動化した社会。全国的な組合や結社の衰退→環境や人権などの単一争点について活動する「権利擁護団体」の台頭。

決められない政治～党派的对立の激化

- ▶ 90年代以降、対立軸の変化。経済問題＝経済的再分配の是非→文化・社会問題＝人種的少数派への政府支持の是非へ。
 - ▶ 共和党。民主党支持の白人労働者の支持を得るため、文化・社会問題で保守的な価値観を強調。
 - ▶ 民主党。文化・社会問題でリベラルな価値観を強調し、都市のリベラルな人々、特に若者の支持を獲得。
 - ▶ 双方は都市のリベラルな専門職層と、地方の保守的な白人労働者を交換。
 - ▶ 分断化した社会。多数の権利擁護団体が、それぞれの論点やイデオロギーに従って保守もしくはリベラルの陣営に振り分けられ、2つの閉鎖的なネットワークを形成。

保守派の行き詰まり

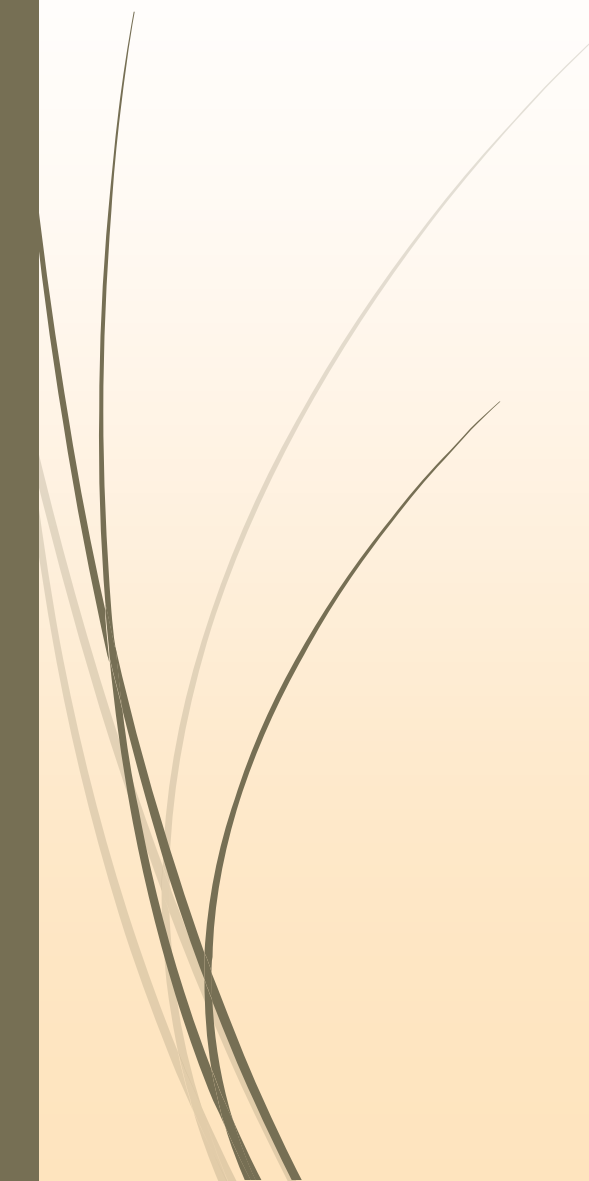
- ▶ ブッシュJr.政権末期、保守派内部の政策対立により保守連合の解体。
 - ▶ 経済問題：反共タカ派と伝統保守（を支持する白人労働者）は「大きな政府」を志向。財政保守と対立
 - ▶ 外交問題：反共タカ派と財政保守は国際志向だが、伝統保守は国内志向。
 - ▶ 貧富の格差の拡大、2008年金融危機による経済的困窮、アフガン、イラク戦争の失敗とともに、伝統保守を通じて共和党を支持した白人労働者層の不満が高まる。
 - ▶ しかし、白人労働者層はリベラルの掲げるアイデンティティ政治にも反発。

リベラル内部の政策対立～中道派と左派

- ▶ 社会・文化問題で少数派の権利促進を主張する勢力、経済問題で格差是正を求める勢力（左派の活動家）と、中道派（職業政治家）の対立。
 - ▶ 多文化主義。アメリカ国民＝独自の伝統と文化を持つ様々な集団の集まりであり、それらの違いを尊重すべき→「自由や平等、自立した個人」というアメリカの伝統的な価値観までも「白人中心の価値観」だとして批判。
 - ▶ キャンセル文化＝有名人の過去の「差別」発言を掘り出しSNSで糾弾する運動。
 - ▶ NYタイムズの「1619プロジェクト」。
- ▶ 白人労働者の反発。「多文化主義は多数派である白人のアイデンティティを尊重しない」



3.歴史的背景から見た2020年大統領選挙



□ トランプ現象とは？

- ▶ 「長年裏切られてきた」白人労働者層の恨みつらみを代弁→反グローバル化、反アイデンティティ政治、反ワシントンのエリート。
- ▶ ナショナルな保守主義。アメリカ固有の歴史や文化、地域コミュニティの擁護を国民統合の理念とする保守主義思想→普遍主義的な理念に基づかない統合の理念。
- ▶ これまで保守運動から排除されてきた白人至上主義などの人種差別思想も入り込む。
- ▶ アメリカ固有の歴史や文化を強調するのはよいとしても、人種差別の歴史や非白人の存在をどのように位置づけるのか

アイデンティティ政治の問題点

- ▶ 人種的・文化的多様化の進展→それぞれの集団が固有の伝統や文化を主張しているだけでは、その全体を束ねる「アメリカの理念」は限りなく空虚になる。
- ▶ 自由や平等といったアメリカの理念そのものに対する攻撃。「西欧中心主義」「黒人差別を隠蔽」→バラバラなアイデンティティ集団に分解していくアメリカ。
- ▶ カマラ・ハリスの勝利演説→「アメリカは平等なチャンスのある国。いかなるマイノリティに対してもアメリカン・ドリームは開かれている」。素晴らしい演説だが、果たしてトランプ支持層に届くか？

アメリカの分断

- ▶ 経済的対立軸→コロナ禍への対応。当面は財政支出＝「大きな政府」で対応せざるを得ない。
- ▶ 文化的・社会的対立軸→南北戦争以来の深刻な対立。「自由と平等」という理念そのものに対する左右両極からの批判。
 - ▶ 保守。アメリカ統合の理念は普遍的な「自由・平等」であるべきか？固有の歴史や文化、共同体の擁護では？
 - ▶ リベラル。「自由・平等」の理念には欺瞞があったのではないか？

大統領選で問われた問題

	ルーズベルトの時代	レーガンの時代	現在
政府	大きな政府 (リベラル優位)	小さな政府 (保守優位)	大きな政府 (混乱・拮抗)
市場経済	規制された市場 (製造業)	競争的市場 (金融)	競争的市場 (GAFA) → 規制と格差是正?
社会	仕切られた社会	個別化・流動化した社会	分断化した社会 → 社会的合意の回復?

- ▶ レーガン以降の社会の流動化 = 経済の自由化・社会の個人主義化 → 経済格差と社会の分断。社会の共同性・社会的合意をいかに回復するのか。
- ▶ 保守。ナショナルな保守主義。(固有の歴史・文化)
- ▶ リベラル。多様性とチャンス?